

社会性報告



日野自動車は、お客様に高品質な製品をお届けするためには、日々モノづくりの技術を磨き、その技術を社内で受け継いでいくことが重要だと考えています。そのために、社員のモノづくり技術の向上と伝承に力を入れています。日野のCSRの重点活動領域の一つに合うものとして、お客様により良い製品をお届けするべく、モノづくり技術を伝承すること、また学校教育を通じた「地域の人づくりへの貢献」事例としてご紹介します。

この度、当社の車両生技部に所属する木村重光さんが、厚生労働省の「平成26年度 卓越した技能者（現代の名工）」のうち「金属加工の職業」部門で名工と認定され表彰を受けました。

木村さんは、日野自動車が技術伝承の中核拠点として設けている企業内訓練校「日野工業高等学園（以下、日野学園）」の出身者であり、学園在籍中から、同じく学園卒で「現代の名工」認定を受けた技能者である佐伯正さんの薫陶を受け、技術を磨いてきました。この度の木村さんの受賞は、日野自動車の技術の高さの現れであるとともに、そうした高い技術が世代を超えて伝承されているということを示すものです。



名工から名工へと 受け継がれる高い技術

国の認定する「現代の名工」は、卓越した技能者を表彰することによって、技能者の地位や技能水準の向上を図ることなどを目的とした表彰制度です。「きわめてすぐれた技能を有する者」などの要件を全て満たす者を都道府県などが推薦し、厚生労働大臣が技能者表彰審査委員の意見を元に決定します。

日野自動車では、木村さんが5人目の認定者となります。木村さんは一枚の鉄板を叩いてものをつくりあげる「板金工」として名工に認定されました。師事した佐伯さんは、若い技術者が技能を競う「技能五輪国際大会」で金メダルを取得するなど、優れた技能を持つ板金の名人です。

木村さんは、日野学園卒業後も試作部門で佐伯さんの下に配属となり、開発設計者のデザイン画等を見ながら板金で試作品をつくる業務に従事してきました。試作は量産の可否などを検討し、設計にフィードバックして正式な図面の作成につなげる重要な役割を担っています。

木村さんは特に打ち出し板金作業と面仕上げ作業に卓越した技能を有しています。例えば、フェンダーなど曲面の部品を溶接箇所が分からないよう仕上げることで、および0.8mmの薄い鉄板からドア等の部品を±0.5mmの高精度で打ち出し加工でき、表面精度についても0.01mm以下で平滑な面に修正することができます。



佐伯氏（左）と木村氏（右）



ボンネット製作等を指導する木村氏

その技能の高さは、東京八王子市にある日野オートプラザに展示されている1966年式BH15型バスに見ることができます。このバスは、木村さんの技能を駆使し、錆ついた部分を切り取り、加工した部品を溶接、表面を仕上げ修復、復元されたものです。

現在、木村さんは後進の育成に従事する他、社員に対する板金の技能検定教育などにも携わっています。名工が名工を生んだ育成の輪は、さらに先へとつながっています。



日野オートプラザの木村さんにより復元された1966年式BH15型バス

日野学園での 技術教育

日野学園とは

木村さんの出身校の日野学園は1951年の創立以来、企業内訓練校として、また地域の教育機関として、人づくり、モノづくり教育に力を入れています。

学園生は日野の社員として、学園生手当てという給与を支給されます。また、遠方からの入学用に寮も完備しています。

40人の定員に対して直近の入学倍率は2.5倍と、平成27年度全日制都立高校の平均入学倍率1.56倍と比較しても難関校です。入学試験は国語・数学・英語と作文ですが、日野の人事担当者・工場人事担当者・学園担当者による面接を通じて、学園生として相応しいか、日野自動車の社員として相応しいかという観点で評価します。



カリキュラムの特徴

学園では、各学年で4週間、日野自動車の製造部門で「応用実習」を行うなど、モノづくりの現場に近く、自動車づくりに関するさまざまな知識を習得することができます。また、学園生は、在籍中に技能検定や国家試験にも挑戦し、資格取得しています。もちろん、国語や数学などの教科の履修、クラブ活動、学園祭、日野の米国製造会社訪問を含む修学旅行もあり、卒業すれば高校卒業資格が取得できます。同期やクラブ活動を通じた先輩後輩のつながり、年2回の同窓会開催など卒業後のつながりの強い学校となっています。



学園祭の作業体験の様子

日野学園の担う役割

卒業した生徒は、日野の製造職場の中核となって課題解決に活躍し、お客様に高品質な製品をお届けするモノづくり伝承において重要な役割を果たしています。

最近では、学園卒社員が3年間教師を務める取り組みも進めており、その技術力や指導力により日野学園の教師となることが、生徒達の将来の目標となっています。教師となる社員も国家試験や指導員免許に挑戦して自分を高め、後進の指導を通じてまた多くを学ぶ機会になるなど、高品質なモノづくりを目指す日野に良いフィードバックをもたらしています。



左から、日野学園の板金授業を受け持つ酒井順和先生、「現代の名工」木村さんと佐伯さん、日野学園47期の1年生。佐伯さんと木村さんは日野学園8期と21期。酒井先生は職場で木村さんの板金指導を受けた日野自動車社員。

Voice

技術を伝える機会をより多く持ちたい

車両生技部 木村 重光

私より前に現代の名工に認定された佐伯さんは、すでに定年退職されていますが、今でも私の大師匠です。初めてお会いしたのは、私が日野学園の2年生の時、以降色々な板金加工法を日野学園や職場でご指導いただきました。これまで、ともかく人に負けたくないという気持ちで努力をしてきたつもりではありますが、まさか自分が受けられるとは思ってはいませんでした。名工への認定を佐伯さんに報告したところ、自分のことのように喜んでくださいました。受賞は技術を伝承できた一つの証とも言えるものであり、これで一つ恩返しできたと私自身も一番嬉しく思いました。

職場で板金加工を指導する時、工法を決めて指示するのではなく、さまざまな工法を示した上で、「自分の得意・不得意を意識し、よく考えながらつくりなさい」と教えています。これも佐伯さんに教わったことです。指導した2名が学園で指導者として現在も活躍しています。技術の継承はとても重要なことですから、若い人に技術を伝える機会をより多く持ちたいと考えています。



日野のモノづくりを後世へ伝えるために

日野工業高等学園 企画総括グループ長 中嶋 東治

日野学園は、日野のモノづくりを後世に伝えていく「技術伝承の道場」です。学園生は基盤となる知識を学ぶことで、自動車づくり全体を俯瞰的に理解することができるようになります。

卒業後は教える立場でまた日野学園に関わりたいと希望する生徒が多いのですが、自分達が良い先生に学んだ経験を後輩達にも伝えたいということで、日野学園の指導が成功していることの表れだと思います。

学園生は技術向上への意欲が高く、社内の技能競技会の上位者にも卒業生の名前を見かけます。2016年1月スタートのダカールラリーにも学園卒の社員がメカニックサブリーダーとして参加するそうです。そういった折り、非常に嬉しく、やりがいを感じます。

製造方法はどんどん新しく変化していますので、学園生にいつも最新の情報を学ばせることができるようカリキュラムを磨いていきたいと考えています。

